

(公財)やまがた育英会

駒込学生会館 板橋学生会館

寮生保護者 各位

(CC:評議員、監事、理事各位)

休日は何食べてる?

~寮生の食事事情~



▲包丁さばきもなかなかのもの



▲パスタは寮生の味方



▲すらり並んだ炊飯器（板橋寮）



▲右上）鶏肉を茹でてストック

右下）おかずの料理は炒め物を中心

板橋学生会館は食事が付きません。駒込学生会館は、月～土、朝夕の2食が出ますが、日曜や祝日は給食はありません。そんな日はどのように過ごしているのでしょうか？

板橋寮では食事がないことが初めから分かっていますので、学生の気合が違います。スライサーなどの調理器具やバターを作れるハンドミキサーを持っている学生もいます。そしてなんといっても必需品は炊飯器。1～2合の少量でもみんな上手に炊いています。おかずは、安価でバラエティーに富むものをと大学や板橋周辺のスーパーマーケットを物色したり、お買い得品の情報交換をしたりしていくらかでも安く食材を調達し、調理しているようです。またアルバイトは時給もさることながら「賄いつき」を探し、お金を稼ぎながらおいしい食事にもありつける飲食店などで働いている学生も少なからずいます。



▲手の込んだパスタの出来上り

駒込学生会館では、女子は居室に電磁調理器があるため、主食だけでなくパンケーキやクッキーを焼いたりする学生もいます。男子学生は、値段が比較的安く、ゆでてソースを絡めるだけでいいパスタを購入し調理する人が目立ちます。食堂には電子レンジが2台置いてありますが、それでチンして食べられるパックご飯派も多く、それでは割高だからと炊飯器を備え、コメは実家から送ってもらう作戦をとっている学生も見られるようになりました。

食は体を作るとともに人生の楽しみの一つです。筋肉増強を意識して高タンパク低カロリーの鳥胸肉を大量に仕入れ、塩を擦り込み茹でて調理した後は、冷凍庫にストックし毎日食べる体育会男子やセロリやパプリカを買ってピクルスを漬けたり、ポーチドエッグを作ったりする寮生もいたりします。かく言う寮監石井も親の介護ストレスで味覚障害となった妻に代わって8年ほど前から夕食を作るようになりました。初めは主菜とみそ汁を作るだけで1時間も要し、「あれほど時間をかけて（料理は）これだけ？」と言われましたが、最近ではプロ顔負けのご馳走をササッと手早く・・・スーパーから買ってきて事なきを得るようになりました。

それはさておき、料理に集中するのも学生にはいい気分転換になるようです。料理の腕と同じように成績も上がりますように・・・

多彩な才能を発揮

～10月19日 秋の寮祭開催～



▲鈴木代表理事の挨拶で開幕



▲中里地区「と組太鼓」の演奏

恒例の秋の寮祭を駒込学生会館で開催しました。鈴木礼子代表理事のあいさつに続き、地元中里地区の子供たち「と組太鼓」の元気な演奏で幕を開け、今年度からスタートした寮生への「海外留学（遊学）支援制度」を受けて渡航した3人が帰国報告を行いました。（詳細は5P～6Pに）

第2部は、やまがた育英会の名物になりつつある「大音楽祭」。現在、132名の学生が在寮していますが、個性豊かな面々ばかりで、その中から音楽大学や音楽専門校、幼いころからの腕を磨いてきた学生が登場しました。

はじめに斎藤 光さん（日本大学芸術学部4年 鶴岡南高卒）がピアノでチャイコフスキイの「花のワルツ」を弾き、続いて本間 光さん（上智大3年 山形東高卒）がヴァイオリンでシューマンの名曲「3つのロマンス」を、そして石川 鴻君（東京音楽大学3年 山形北高卒）がモーツアルトのホルン協奏曲を演奏。音楽会の掉尾を飾ったのは高橋健太君（尚美ミュージックカレッジ専門学校4年 鶴岡東高卒）率いる18名のバンド



▲学生のほか来賓など多くの人にぎわった

▲学生委員会が受け付けを担当





▲齋藤 光さんのピアノ

SHOBI CAPRICE WIND ENSEMBLE で、「風の谷のナウシカ」、「赤いスイートピー」などアニメやポピュラー曲を披露し、プロ顔負けの見事な演奏に大きな拍手が送られていました。



▲姉の葵さんのピアノ伴奏でヴァイオリンを演奏する本間 光さん



▲石川鴻君がホルンで名曲を



▲高橋健太君指揮でポピュラー曲を次々と披露



▲真剣に聴き入る参加者のみなさん

アッと言わせた杉田寮母



▲演奏する杉田美和子寮母

サプライズで登場したのが駒込学生会館の杉田美和子寮母です。幼いころからお姉様と一緒にギターを習い、現在も週2回ほど練習をしているとのこと。寮母として学生の信頼も厚く、親身になって寮生、特に女子学生の面倒を見てくれています。その人が奏でるホセ・フェレール作曲の「ワルツ」は素晴らしいの一言。エプロン姿で掃除をしている姿しか見たことのない寮生からは「普段とのギャップがすごい」、「指使いが素敵」といった感想が漏っていました。

食材は山形から取り寄せの芋煮登場

お待ちかね、米沢牛をぜいたくに使った「芋煮」の登場です。芋はJAさがえの「つるり芋」、米沢牛の名門 黄木の「特選牛肉」こんにゃく懐石で有名な上山市の「丹野こんにゃく」と材料のほとんどを山形から取り寄せた贅沢な芋煮です。そしてブランド米「つや姫」のおにぎりも。この日は、中里地区会、山形県東京事務所や理事、評議員などの来賓の方々、それに鹿児島や奈良、武生などの他県の寮生も来ており、みなさん本場以上の味に満足してくれたようです。



▲米沢牛の芋煮



▲厨房ではスタッフのみなさんが早朝から調理を



寮長が髪を剃る？

男子寮長・高橋悠哉君（駒澤大学仏教学部3年 山形南卒）の寮長としての仕事はこの日の寮祭まで。次期寮長（正式には学生委員長）に選定された村井駿介君（早稲田大教育学部2年 山形南卒）に代々受け継がれている寮長証の木札（右写真）が手渡されました。

ここでもまた驚きの企画がありました。寮長退任に伴う剃髪式です。

悠哉君の実家は、東根市にある「龍泉寺」という曹洞宗の古刹。本人は住職を継ぐべく、卒業後は大本山の永平寺か總持寺で修行することになるそうですが、それに向けて「首座法戦式（しゅそほっせんしき）」という僧侶が一人前になる儀式に臨むため、この日に頭を丸めることにしました。

▲寮長証の木札

最初にバリカンを入れたのは女子寮長としてともに頑張ってきた村山佳菜さん（立教大学文学部3年 山形西高卒）、続いて次期男子寮長、鈴木代表理事、鹿児島寮の代表、同学年の友人などが次々と電動バリカンを動かしました。最後の止め鉗ならぬ止めバリカンは、本人たっての希望で、寮管理人であり、朝夕の調理を一身に担い美味しい食事を提供している芹澤敏さんです。黒々としていた頭が青々とした頭皮に変わり、参加者全員が大きな拍手で修行の無事を祈りました。



▲代表理事（左）・芹澤管理人（右）などが次々とバリカンを



▲すっきりした頭の高橋悠哉君

多くの刺激と気づきが

～寮祭で海外留学（遊学）支援報告～

(公財)やまがた育英会では、寮生が海外の国・地域の人々や異文化に触れ合うことを奨励し、国際的視野を持つ人材の育成に寄与すること目的として、今年度「寮生海外留学（遊学）支援制度」を創設しました。

学生時代に海外への目を見開いてもらうため、長期留学ばかりでなく数週間の短期留学、8日以上の海外旅行も対象としています。支給額は1人10万円。この制度も活用して今年度は13人の寮生が出かけたり、留学・遊学の準備をしたりしていますが、この9月までに海外で様々な体験をしてきた3人が「秋の寮祭」第1部で発表を行いました。その内容を簡単に紹介します。

マン彻スター大留学

伊藤さやさん（東京理科大工学部2年 鶴岡南高卒）

- 期 間 8月9日～9月7日
- 留 学 先 イギリス・マン彻スター大
- 研修内容 約30日間の語学研修
- 気づきと感想

- ・異文化コミュニケーションの向上には何よりも「伝えようとする意欲」が大切
- ・国籍の違う学生と学ぶ中で、物事の前提が異なることに気づかされた。例えば日本人大学生の多くがアルバイトをしていると話すと「学生は勉学が主なのになんでアルバイトをするの」、「なぜ貧乏なのに大学に行くのか」と聞かれたこと。
- ・英国での貴重な留学体験で語学力向上や国際的なエンジニアとしての素養を育むことができた。



▲伊藤さやさん

スリランカ研修

佐藤寛太君（明治大学国際日本学部3年 鶴岡東高卒）



- 期 間 6月22日～30日
- 研 修 先 スリランカ（ネゴンボ、シーギリア、キンディー、コロンボ等）
- 研修内容 スリランカの観光業と地域開発の実態を学ぶ

○気づきと感想

- ・タクシー運転手やレストラン店員など多くの現地スタッフが英語を話し、観光客とのコミュニケーションを自然に行っており、観光地における共通言語の重要性を再認識した。
- ・紅茶街道の旅は7時間にも及ぶ長距離移動ながら、窓が大胆に開放された列車から自然の風景を直接感じることができ「移動そのものを楽しむ」という発想は、山形でも生かせるヒントになると感じた。
- ・紅茶という1つの資源を農園、加工工場、販売所、試飲スペースといった複数の形で展開し、観光の中心資源として機能させていた。山形県の特産品であるサクランボや日本酒にも応用が可能ではないか。

タンザニアの子どもたちへの学習支援

高橋美星さん（上智大学外国語学部2年 鶴岡南高卒）

※色鮮やかなタンザニア民族衣装での登場

○期 間 9月1日～24日

○留 学 先 アフリカ・タンザニア

○研修内容 タンザニアで教育支援活動（ノート、鉛筆等の提供、子どもたちとの交流等）



▲高橋美星さん

○気づきと感想

- ・タンザニアの子どもたちへの学習支援を行う大学サークル活動している。日本での主な活動は資金と物資集め、タンザニアについての学習など。
- ・支援している小学校の建設状況や子供たちとの交流を通して学習状況などを確認し、必要物資の確認してきた。また現地の文化や歴史についても学習してきた。
- ・日本の教育環境はとても恵まれていると感じた。個人的支援と国レベル等の組織的支援との違いは大きい。アフリカの情報は日本では多くないからこそ関心を持ち長く続けていくことが重要だと感じている。

次年度も継続します

海外に出かけた学生は気づきも多く、また在寮生へ与える刺激もあることから、「寮生海外留学（遊学）支援制度」は令和8年度以降も継続していく予定です。この支援を受ける条件として【帰国報告】があり、「代表理事宛てリポート提出により帰国報告し寮会等で発表する」としています。

今回の寮祭で発表できなかった被支援学生は、月1回開催される今後の寮会で報告することになっています。

芝蘭結契

～寮生の活躍にみんなで拍手～

「芝蘭結契（しらんけっけい）」とは、よい感化をもたらす才能・人徳に優れた人との付き合いのこと。スポーツに限らず音楽や絵画、文芸などの芸術文化、各種コンテスト、サークル活動などでの寮生の活躍を紹介し、みんなで称えあいたいと考えています。それが、寮生の気づきや励みにもなるからとの思いです。

山形新聞「読者の写真コーナー」に掲載

◇タイトル【野良と爺】

◇撮影者 設楽 旦陽 君（日本大学芸術学部
写真学科 1年 山形南高出）

◇山形新聞の評

「知人の畑に住みついた猫とのツーショット。
男性の優しい表情が良く、猫への愛情が伝わってきて、心が通じ合った素敵なかかわりが表現された1枚です」



▲設楽旦陽君の作品 「野良と爺」

「やまがた育英会」美術品シリーズはお休みします

(公財) やまがた育英会 寮監 石井 隆
ご感想・ご意見をお待ちしています

t-ishii@yamagata-ikueikai.or.jp